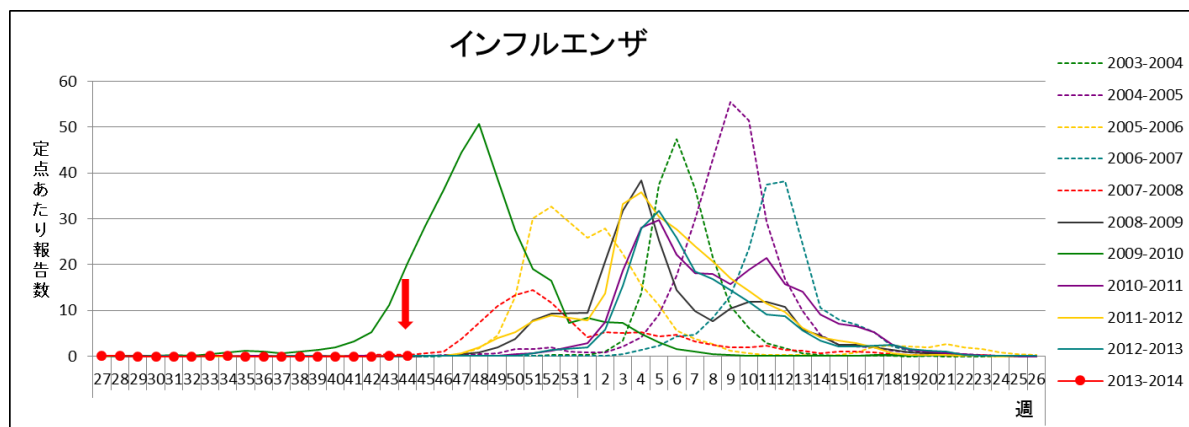


インフルエンザ情報 2013 年第 44 週 (10 月 28 日 ~ 11 月 3 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、岡山市で 1 名の発生があり、今シーズン 2 人目の発生となりました (84 定点医療機関報告)。
- インフルエンザとみられる学校の臨時休業、入院患者報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、岡山市で 20 代の患者 1 名の発生があり、先週の備中にひきつづき、今シーズンの県内 2 人目の発生となりました (定点あたり 0.01 人)。県内の発生は、まだ散発的です。

全国集計第 43 週 (10/21~10/27) 速報値によると、全国では定点あたり 0.06 人であり、発生はまだ散発的です。地域別では、沖縄県 (0.69 人)、佐賀県 (0.31 人)、静岡県 (0.30 人) の順で定点あたり報告数が多くなっていますが、インフルエンザの流行期の目安となる「定点あたり 1.0 人」を越えている地域はありませんでした。また、全国ではインフルエンザウイルス AH3 型が 23 件、AH1pdm09 型が 14 件、B 型が 9 件検出されており、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、全国ではすでに集団事例も発生しています。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

インフルエンザにかからないようにするには

1. 飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。

- ・ 外から帰ってきたときには手洗いを心がけましょう。
- ・ アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・ 流行期には人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用するなどして感染を防ぎましょう。
- ・ 普段からの健康管理も重要です。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておくこともインフルエンザの発症を防ぐ効果があります。

2. 予防接種も重要です。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 流行するウイルスの型も変わるので、毎年、定期的に接種することが望まれます。

インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは

「他の人にうつさない」ことが大事です。

- ・ せきが出るときはマスクを付け、せきエチケット※を行いましょう。
- ・ 同居する他の家族、特に重症になりやすいお年寄りなどにはなるべく接触しないよう心がけましょう。
- ・ 家族が患者さんと接するときには念のためマスクを着用し、お世話の後は、こまめに手を洗いましょう。

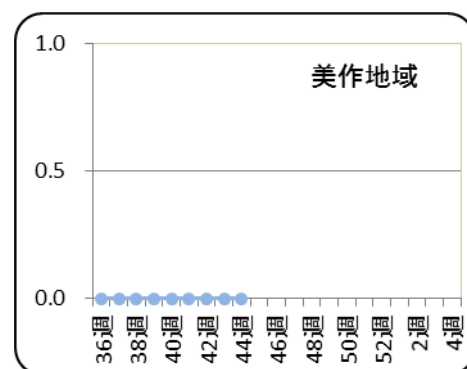
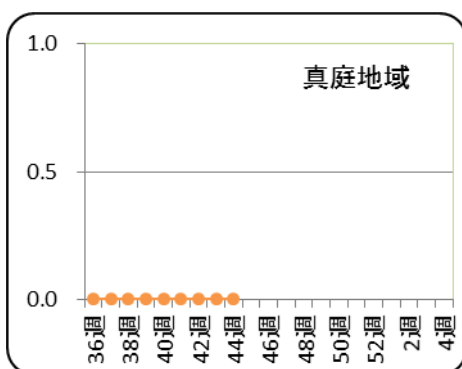
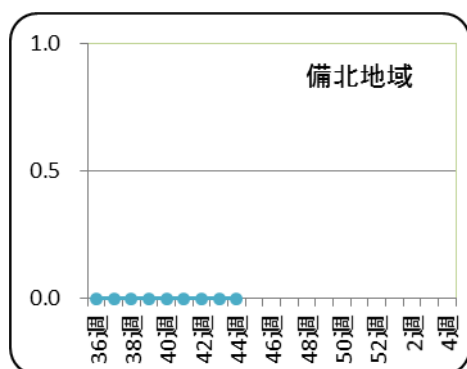
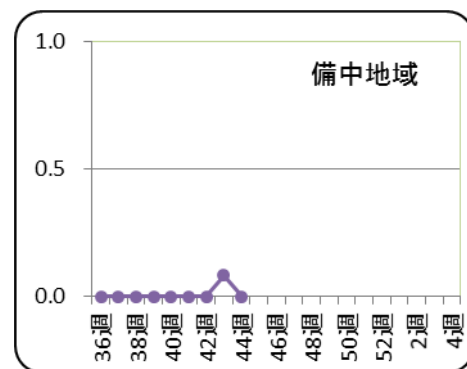
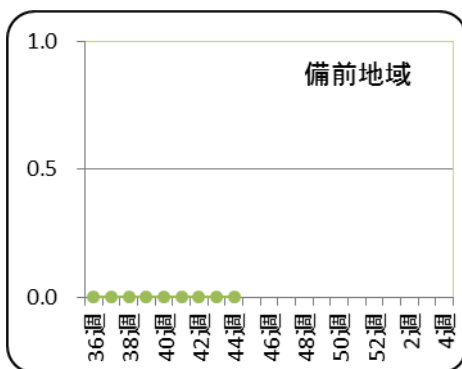
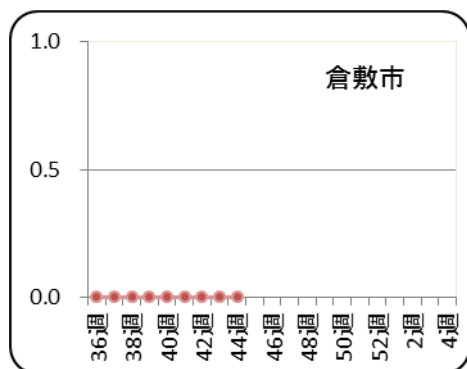
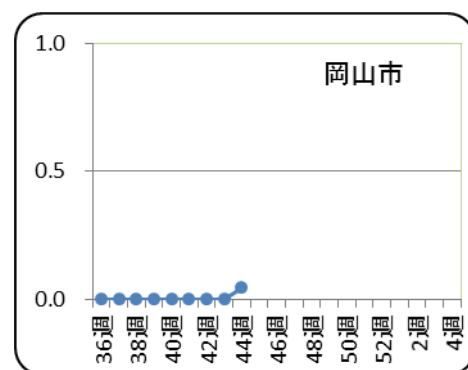
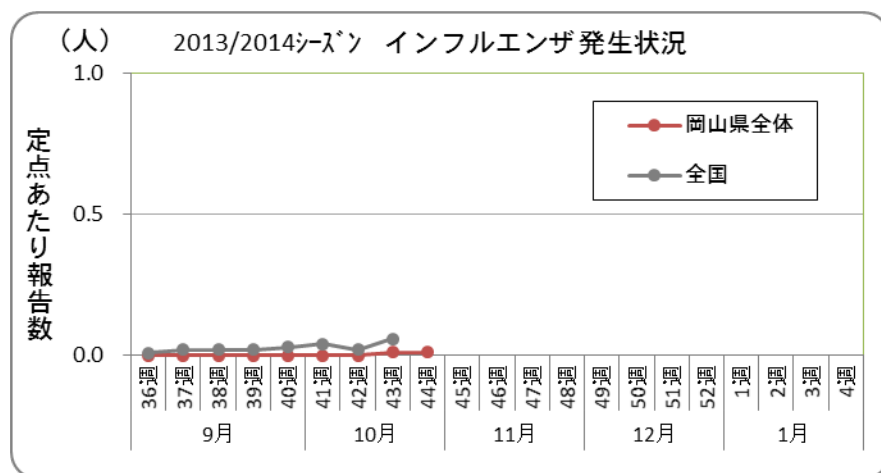
※せきエチケットとは：人に向かって咳やくしゃみをしないことです。とっさにせきやくしゃみが出そうなときは、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。せきやくしゃみがつづく時はマスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

第44週（10/28～11/3） 前週からの推移（単位：人）

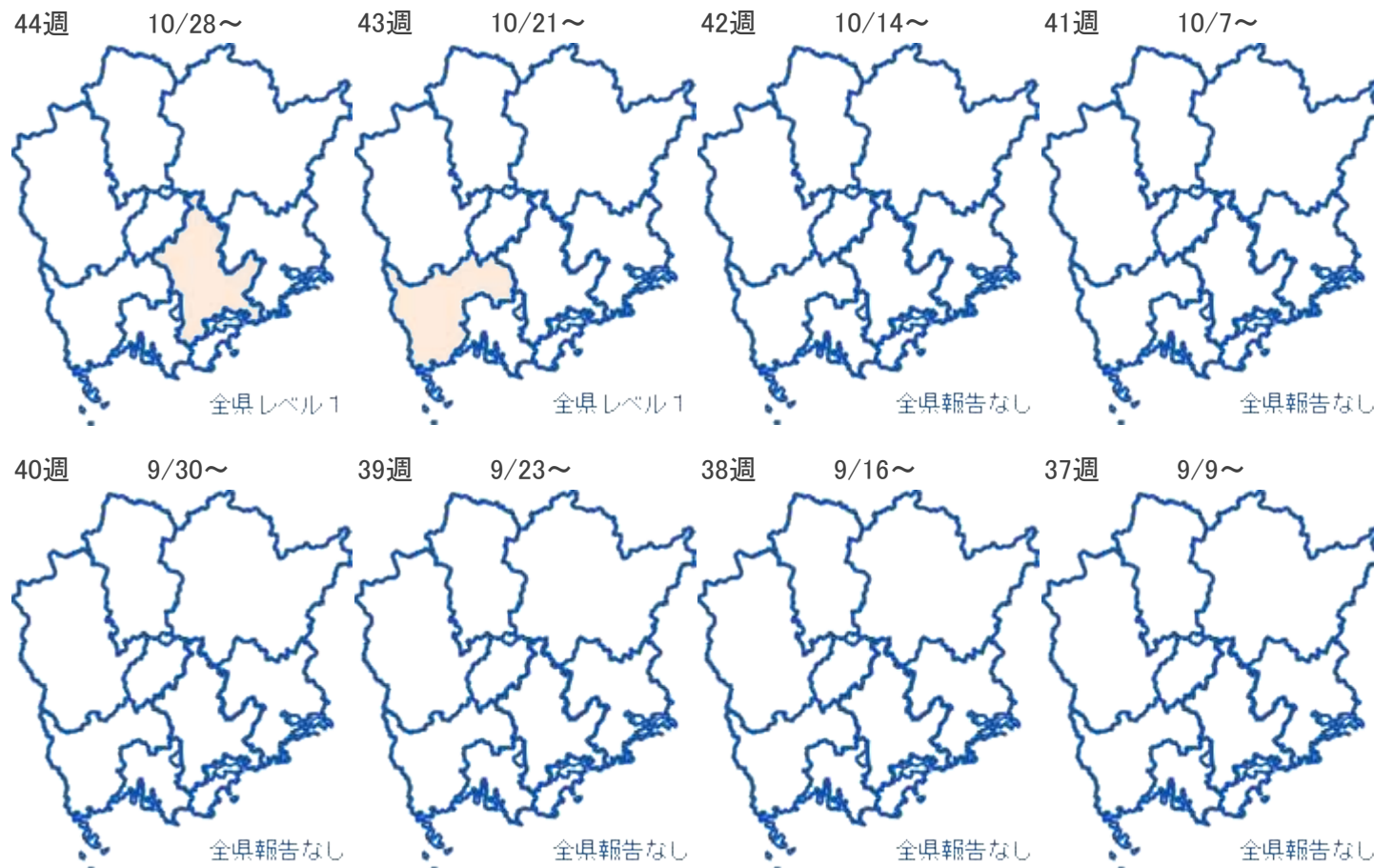
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1	➡	備 中	患者数	—	⬇
	定点あたり	0.01			定点あたり	—	
岡山市	患者数	1	⬆	備 北	患者数	—	➡
	定点あたり	0.05			定点あたり	—	
倉敷市	患者数	—	➡	真 庭	患者数	—	➡
	定点あたり	—			定点あたり	—	
備 前	患者数	—	➡	美 作	患者数	—	➡
	定点あたり	—			定点あたり	—	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ⬇ 1.1～2倍未満の減少 ⬇ 1.1未満の増減 ➡
1.1～2倍未満の増加 ⬆ 2倍以上の増加 ⬆





インフルエンザ



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満	0 < 10 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。